

# 5

【参考資料3】  
平成29年度 小・中学校新教育課程説明会  
（中央説明会）における  
文部科学省説明資料（抜粋）

何を学ぶかー具体的な教育内容の改善・充実ー

# 幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント ④

## 4. 教育内容の主な改善事項

### 言語能力の確実な育成

- ・発達の段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成(小中:国語)
- ・学習の基盤としての各教科等における言語活動(実験レポートの作成、立場や根拠を明確にして議論することなど)の充実(小中:総則、各教科等)

### 理数教育の充実

- ・前回改訂において2~3割程度授業時数を増加し充実させた内容を今回も維持した上で、日常生活等から問題を見いだす活動(小:算数、中:数学)や見通しをもった観察・実験(小中:理科)などの充実によりさらに学習の質を向上
- ・必要なデータを収集・分析し、その傾向を踏まえて課題を解決するための統計教育の充実(小:算数、中:数学)、自然災害に関する内容の充実(小中:理科)

### 伝統や文化に関する教育の充実

- ・正月、わらべうたや伝統的な遊びなど我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむこと(幼稚園)
- ・古典など我が国の言語文化(小中:国語)、県内の主な文化財や年中行事の理解(小:社会)、我が国や郷土の音楽、和楽器(小中:音楽)、武道(中:保健体育)、和食や和服(小:家庭、中:技術・家庭)などの指導の充実

### 体験活動の充実

- ・生命の有限性や自然の大切さ、挑戦や他者との協働の重要性を実感するための体験活動の充実(小中:総則)、自然の中での集団宿泊体験活動や職場体験の重視(小中:特別活動等)

## 外国語教育の充実

- ・小学校において、中学年で「外国語活動」を、高学年で「外国語科」を導入  
※小学校の外国語教育の充実に当たっては、新教材の整備、養成・採用・研修の一体的な改善、専科指導の充実、外部人材の活用などの条件整備を行い支援
- ・小・中・高等学校一貫した学びを重視し、外国語能力の向上を図る目標を設定するとともに、国語教育との連携を図り日本語の特徴や言語の豊かさに気付く指導の充実

## 情報活用能力(プログラミング教育を含む)

- ・コンピュータ等を活用した学習活動の充実(各教科等)
- ・コンピュータでの文字入力等の習得、プログラミング的思考の育成(小:総則、各教科等(算数、理科、総合的な学習の時間など))

## 現代的諸課題への対応

- ・市区町村による公共施設の整備や租税の役割の理解(小:社会)、国民としての政治への関わり方について自分の考えをまとめる(小:社会)、民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連についての考察(中:社会)、主体的な学級活動、児童会・生徒会活動(小中:特別活動)
- ・少子高齢社会における社会保障の意義、仕事と生活の調和と労働保護立法、情報化による産業等の構造的な変化、起業、国連における持続可能な開発のための取組(中:社会)
- ・売買契約の基礎(小:家庭)、計画的な金銭管理や消費者被害への対応(中:技術・家庭)
- ・都道府県や自衛隊等国の機関による災害対応(小:社会)、自然災害に関する内容(小中:理科)
- ・オリンピック・パラリンピックの開催を手掛かりにした戦後の我が国の展開についての理解(小:社会)、オリンピック・パラリンピックに関連したフェアなプレイを大切にするなどスポーツの意義の理解(小:体育、中:保健体育)、障害者理解・心のバリアフリーのための交流(小中:総則、道徳、特別活動)
- ・海洋に囲まれ多数の島からなる我が国の国土に関する指導の充実(小中:社会)
- ・教育課程外の学校教育活動として教育課程との関連の留意、社会教育関係団体等との連携による持続可能な運営体制(中:総則)

## 道徳の「特別の教科」化(学習指導要領の改正)

教育再生実行会議の提言や中央教育審議会の答申を踏まえ、学習指導要領の一部を改正し、「道徳の時間」(小・中学校で週1時間)を「**特別の教科 道徳**」「**道徳科**」(引き続き週1時間)として**新たに位置付ける**(平成27年3月27日)

### 【特別の教科】

道徳は、**学級担任が担当**することが望ましいと考えられること、**数値などによる評価はなじまない**と考えられることなど、各教科にない側面があるため、「特別の教科」という新たな枠組みを設け、位置付ける。

### 具体的なポイント

- ❑ 道徳科に**検定教科書を導入**
- ❑ 内容について、**いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善**
  - 「個性の伸長」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」「よりよく生きる喜び」の内容項目を小学校に追加
- ❑ **問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫**
- ❑ 数値評価ではなく、**児童生徒の道徳性に係る成長の様子**を認め、励ます評価(記述式)
  - 指導要録の様式例は示すが、内申書には記載せず、入学者選抜に使用しない

※私立小・中学校はこれまでどおり、「道徳科」に代えて「宗教」を行うことが可能

**「答えが一つではない課題に子供たちが道徳的に向き合い、考え、議論する」道徳教育への転換により児童生徒の道徳性を育む。**

# 「考え、議論する道徳」への質的転換に向けて

## ■質的転換に向けて

道徳的価値に迫る読み物の活用や、道徳的価値に関する問題解決的な学習・体験的な学習など、多様な指導方法を取り入れた授業を各学校において展開する。

### 問題場面から考える学習の(例)

○道徳的価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とできない自分との葛藤から生じる問題  
(例)

いじめをせずに誰とでも仲良くしたい  
(「相互理解、寛容」「友情、信頼」等)

(例)  
いじめ

現実の場面では傍観してしまう  
相手にも非があると思ってしまう  
異なる考えや立場を受け入れられない

○複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題  
(例)

寛大な心をもって他人の過ちを許す  
(「相互理解、寛容」)

理解し合い、信頼や友情を育む  
(「友情、信頼」)

葛藤  
や  
衝突

法やきまりへの放縦で自分勝手な  
反発を許さない(「規則の尊重」)

同調圧力に流されない  
(「公正、公平、社会正義」)

- ・「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。
- ・他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。

# 道徳教育に係る評価等の在り方について

## ○改訂後の学習指導要領(特別の教科 道徳)

児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。

ただし、数値などによる評価は行わないものとする。



### 具体的な方法を、道徳科の評価の在り方に関する専門家会議で検討

(H27.6~H28.7)

#### 【基本的な方向性】

- 数値による評価ではなく、記述式とすること、
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること、
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価(※)として行うこと、
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- 調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要



※専門家会議報告に基づき、道徳科の学習評価の在り方、指導要録の参考様式について、平成28年7月29日付で都道府県教育委員会等に通知

# 道徳教育の抜本的充実に向けた支援について

## 指導的な教員の研修

- ・ 各地域で指導的な役割が期待される教員等への研修を実施  
道徳教育指導者養成研修〔(独)教職員支援機構主催〕中央＋全国6カ所で開催

## 都道府県等の取組への支援

都道府県教育委員会が行う道徳教育の抜本的充実に向けた取組を支援

- ・ 教員対象の研修会（道徳教育パワーアップ研修）
- ・ 地域の特色を生かした道徳教材の作成（郷土教材）
- ・ 家庭、地域との連携協力（「親子道徳の日」など） など

## 教員向け参考資料の充実

文部科学省で作成した授業映像資料や、各教育委員会提供の実践事例等を集めた「道徳教育アーカイブ（仮）」をインターネット上で開設

<https://doutoku.mext.go.jp/>（誰でもアクセス可能）



## 家庭、地域等への周知

学習指導要領改訂についての保護者向けリーフレットの作成、配布

# 小学校の標準授業時数

〔 改 訂 後 〕

〔 現 行 〕

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
国語	306	315	245	245	175	175	1461
社会	-	-	70	90	100	105	365
算数	136	175	175	175	175	175	1011
理科	-	-	90	105	105	105	405
生活	102	105	-	-	-	-	207
音楽	68	70	60	60	50	50	358
図画工作	68	70	60	60	50	50	358
家庭	-	-	-	-	60	55	115
体育	102	105	105	105	90	90	597
特別の教科 である道徳	34	35	35	35	35	35	209
特別活動	34	35	35	35	35	35	209
総合的な 学習の時間	-	-	70	70	70	70	280
外国語活動	-	-	<u>35</u>	<u>35</u>	-	-	<u>70</u>
<u>外国語</u>	-	-	-	-	<u>70</u>	<u>70</u>	<u>140</u>
合計	850	910	<u>980</u>	<u>1015</u>	<u>1015</u>	<u>1015</u>	<u>5785</u>

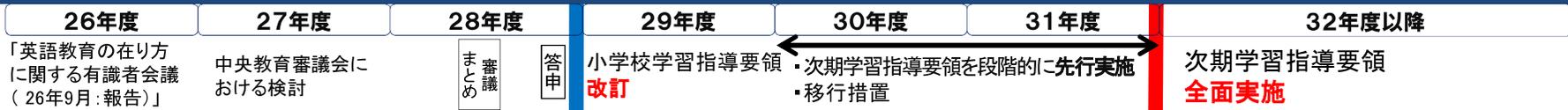
	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
国語	306	315	245	245	175	175	1461
社会	-	-	70	90	100	105	365
算数	136	175	175	175	175	175	1011
理科	-	-	90	105	105	105	405
生活	102	105	-	-	-	-	207
音楽	68	70	60	60	50	50	358
図画工作	68	70	60	60	50	50	358
家庭	-	-	-	-	60	55	115
体育	102	105	105	105	90	90	597
道徳	34	35	35	35	35	35	209
特別活動	34	35	35	35	35	35	209
総合的な 学習の時間	-	-	70	70	70	70	280
外国語活動	-	-	-	-	35	35	70
合計	850	910	945	980	980	980	5645

※ この表の授業時数の1単位時間は、45分とする。

※ 各教科の授業について、15分程度の短い時間を活用して学習活動を行う場合については、総授業時間数や学習活動の特質に照らし妥当かどうかの教育的配慮に基づいた判断が必要である。

# 小学校外国語教育の早期化・教科化支援 実施スケジュール(イメージ)

平成29年6月5日現在



## 1. 新教材の整備・効果的な指導方法の普及



### 英語(外国語)教育強化地域拠点事業

改訂の趣旨を先取した先進的な取組を全国に普及

実施スケジュール

- ◀H29>2月: <連絡協議会>年間指導計画例素案(3~6年)、児童冊子・指導書(各学年1ユニットのサンプル)を配布
  - 6月: <小学校新教育課程説明会>年間指導計画例案・活動例案(暫定版、3~6年)、学習指導案例(暫定版、3~6年・各1単元)、児童冊子・指導書(編集原稿・暫定版、3~6年・各1単元)、研修ガイドブック(一部)を配布及び各データの共有
  - 7月: 研修ガイドブック(全体版)のデータ共有
  - 8月: 新教材の需要数調査実施
  - 9月: 児童冊子・指導書(印刷原稿、5・6年全単元)、学習指導案例(5・6年全単元)のデータ共有
  - 9月21日(木) <新教材説明会>新教材の活用及び指導法等について伝達
  - 12月: 児童冊子・指導書(印刷原稿、3・4年全単元)、学習指導案例(3・4年全単元)、デジタル教材(5・6年)のデータ共有
  - ◀H30>1月: デジタル教材(3・4年)のデータ共有、<連絡協議会>研究校における取組事例等について紹介
- 2月頃: 児童冊子・指導書・デジタル教材(完成版、3~6年)を送付

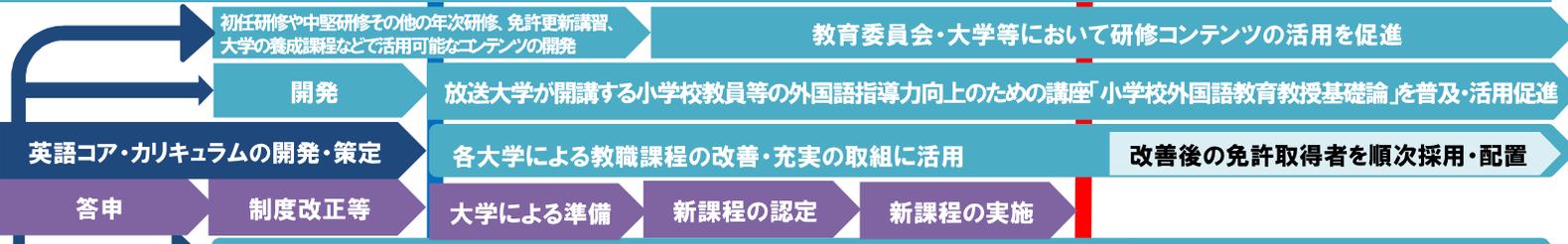
※配布する新教材については、移行措置・先行実施のどちらにも対応できる内容とすることを検討

## 2. 教員の指導力・専門性向上(推進リーダー・中核教員/全小学校教員)

### 外部専門機関と連携した英語指導力向上事業

- 「英語教育推進リーダー」を毎年約200人ずつ養成(平成30年度までに約1000人養成)
- 「英語教育推進リーダー」による全中核教員を対象とした研修実施を促進
- 中核教員による全小学校教員を対象とした校内研修の完了を目指す

現職教員の研修を改善



## 3. 指導者の確保・充実

専門性を持った教員配置のための加配定数の充実(小学校英語に活用可能)

指導方法工夫改善定数

専科指導の充実

専科指導やTTなどで学級担任をサポート

ALT等外部人材の活用促進(JET-ALT、非常勤講師等活用への支援を含む)

ALT等外部人材2万人以上の配置を目指す 「日本再興戦略2016(H28.6)」 「対日直接投資促進のための政策パッケージ(H28.5)」

うち、補習等のための指導員等派遣事業(小学校英語) 400人

2,000人(目標)

※特別免許状 英語95件/215件

※特別非常勤講師 英語532件/4,559件(小学校)

小学校外国語教育の早期化・教科化等に向けた条件整備を一体的に推進

# 小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について（議論の取りまとめ）

## プログラミング教育の必要性の背景

- ・近年、飛躍的に進化した人工知能は、所与の目的の中で処理を行う一方、人間は、みずみずしい感性を働かせながら、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかなどの目的を考え出すことができ、その目的に応じた創造的な問題解決を行うことができるなどの強みを持っている。こうした人間の強みを伸ばしていくことは、学校教育が長年目指してきたことでもあり、社会や産業の構造が変化し成熟社会に向かう中で、社会が求める人材像とも合致するものとなっている。
- ・自動販売機やロボット掃除機など、身近な生活の中でもコンピュータとプログラミングの働きの恩恵を受けており、これらの便利な機械が「魔法の箱」ではなく、プログラミングを通じて人間の意図した処理を行わせることができるものであることを理解できるようにすることは、時代の要請として受け止めていく必要がある。
- ・小学校段階におけるプログラミング教育については、コーディング（プログラミング言語を用いた記述方法）を覚えることがプログラミング教育の目的であるとの誤解が広がりつつあるのではないかと指摘もある。

### プログラミング教育とは

子供たちに、**コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということ**を体験させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「**プログラミング的思考**」などを育成するもの

### プログラミング的思考とは

自分が意図する一連の活動を実現するために、**どのような動きの組合せが必要**であり、一つ一つの動きに対応した記号を、**どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善**していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを**論理的に考えていく力**

## プログラミング教育を通じて目指す育成すべき資質・能力

学びに向かう力・人間性等

知識・技能

思考力・判断力・表現力等

#### 【知識・技能】

（小）身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。

#### 【思考力・判断力・表現力等】

発達の段階に即して、「プログラミング的思考」を育成すること。

#### 【学びに向かう力・人間性等】

発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること。

こうした資質・能力を育成する**プログラミング教育を行う単元**について、**各学校が適切に位置付け、実施**していくことが求められる。また、**プログラミング教育を実施する前提**として、**言語能力の育成や各教科等における思考力の育成**など、全ての教育の基盤として長年重視されてきている資質・能力の育成もしっかりと図っていくことが重要である。

### 【小学校段階におけるプログラミング教育の実施例】

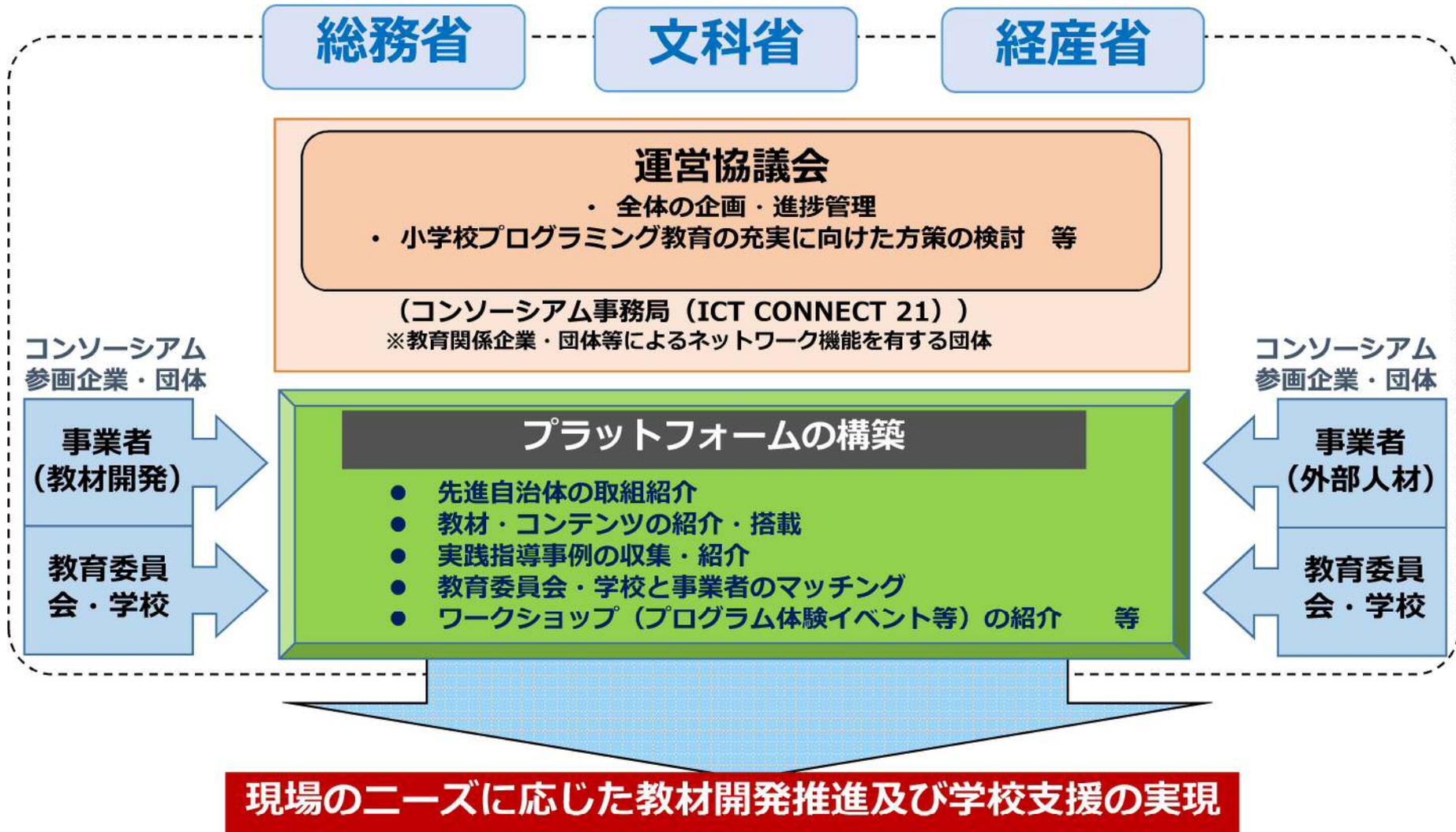
総合的な学習の時間	自分の暮らしとプログラミングとの関係を考え、そのよさに気付く学び	音楽	創作用のICTツールを活用しながら、音の長さや高さの組合せなどを試行錯誤し、音楽をつくる学び
理科	電気製品にはプログラムが活用され条件に応じて動作していることに気付く学び	図画工作	表現しているものを、プログラミングを通じて動かすことにより、新たな発想や構想を生み出す学び
算数	図の作成において、プログラミング的思考と数学的な思考の関係やよさに気付く学び	特別活動	クラブ活動において実施

### 【実施のために必要な条件整備等】

- （１）ICT環境の整備
- （２）教材の開発や指導事例集の整備、教員研修等の在り方
- （３）指導体制の充実や社会との連携・協働

# 未来の学びコンソーシアム

- 文部科学省・総務省・経済産業省が連携して、教育・IT関連の企業・ベンチャーなどと共に、「未来の学びコンソーシアム」を立ち上げ、多様かつ現場のニーズに応じたデジタル教材の開発や学校における指導に向けたサポート体制構築を推進。
- 当面、小学校プログラミング教育の充実・普及促進の実現に貢献すべく取組を推進。



## 中学校の標準授業時数

〔 改 訂 後 〕

	1学年	2学年	3学年	計
国語	140	140	105	385
社会	105	105	140	350
数学	140	105	140	385
理科	105	140	140	385
音楽	45	35	35	115
美術	45	35	35	115
保健体育	105	105	105	315
技術・家庭	70	70	35	175
外国語	140	140	140	420
特別の教科 である道徳	35	35	35	105
特別活動	35	35	35	105
総合的な 学習の時間	50	70	70	190
合計	1015	1015	1015	3045

〔 現 行 〕

	1学年	2学年	3学年	計
国語	140	140	105	385
社会	105	105	140	350
数学	140	105	140	385
理科	105	140	140	385
音楽	45	35	35	115
美術	45	35	35	115
保健体育	105	105	105	315
技術・家庭	70	70	35	175
外国語	140	140	140	420
道徳	35	35	35	105
特別活動	35	35	35	105
総合的な 学習の時間	50	70	70	190
合計	1015	1015	1015	3045

※ この表の授業時数の1単位時間は、50分とする。

※ 各教科の授業について、15分程度の短い時間を活用して学習活動を行う場合については、総授業時間数や学習活動の特質に照らし妥当かどうかの教育的な配慮に基づいた判断が必要である。

## 中学校教育について

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(平成28年12月21日) <抄>

- (義務教育段階で求められる資質・能力の確実な育成を目指した教育課程の見直し)
- 小学校教育においては、学級担任が児童の生活全般に関わりながら、各教科等の学習も含め児童の育ちを全般的に支えている。中学校教育には、教科担任による各教科等の専門性を踏まえた指導を通じて、小学校教育の成果を受け継ぎ、義務教育9年間の集大成として、必要な資質・能力として確実に育てていくこととともに、生徒一人一人の興味や関心に応じた学びを深め広げ、自らのキャリア形成の方向性を見いだし、高等学校教育等のその後の学びにつなげていくという、極めて重要な役割が期待されている。
  
  - そのためには、中学校教育を通じて育むことを目指す資質・能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」を通じて確実に育てていくことが求められる。各教科等においては、例えば前述(2)②の言語能力の育成と国語教育、外国語教育の改善・充実などは、小学校だけに求められるものではなく、中学校や高等学校においても重視・充実される必要がある。また、後述の2.以降で示すとおり、例えば社会科において、高等学校地理歴史科に「歴史総合(仮称)」が設置されることを受け、我が国の歴史に関わる世界の歴史の学習を充実させ、広い視野を持って我が国の歴史の理解を促すことや、外国語教育に関して、指導する語彙数を、実際のコミュニケーションにおいて必要な語彙を中心に充実していくことなどとしている。

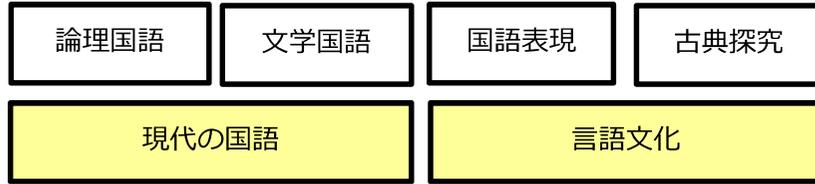
# 高等学校の教科・科目構成について

(科目構成等に変更があるものを抜粋)

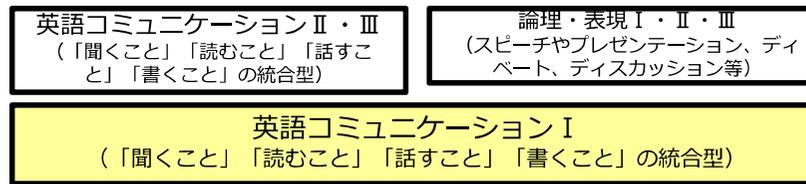
…共通必修
…選択必修

※ グレーの枠囲みは既存の科目

## 国語科

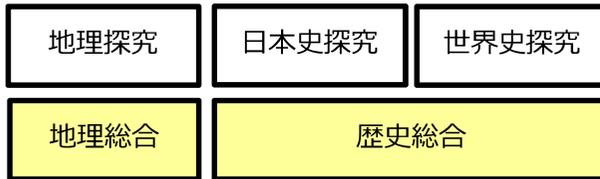


## 外国語科



※英語力調査の結果やCEFRのレベル、高校生の多様な学習ニーズへの対応なども踏まえ検討。

## 地理歴史科



## 公民科



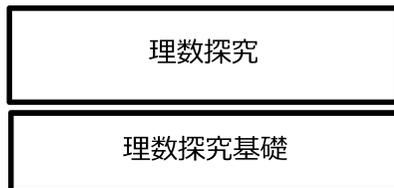
## 家庭科



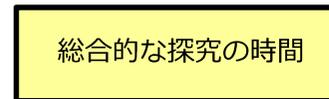
## 情報科



## 理数科



## 総合的な探究の時間



※ 実社会・実生活から自ら見出した課題を探究することを通じて、自分のキャリア形成と関連付けながら、探究する能力を育むという在り方を明確化する。

## 数学科



## 理科



# 高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数

〔改訂案〕 〔現行〕

教科	科目	標準単位数	必履修科目
国語	現代の国語	2	○
	言語文化	2	○
	論理国語	4	
	文学国語	4	
	国語表現	4	
	古典探究	4	
地理歴史	地理総合	2	○
	地理探究	3	
	歴史総合	2	○
	日本史探究	3	
	世界史探究	3	
公民	公共	2	○
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	3	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学C	2	
	科学と人間生活	2	
物理基礎	2		
物理	4		
化学基礎	2		
化学	4		
生物基礎	2		
生物	4		
地学基礎	2		
地学	4		

教科	科目	標準単位数	必履修科目
国語	国語総合	4	○2単位まで減可
	国語表現	3	
	現代文A	2	
	現代文B	4	
	古典A	2	
	古典B	4	
地理歴史	世界史A	2	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 10px; height: 100%; margin-right: 5px;"></div> <div style="font-size: 0.8em;">○</div> </div>
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	5	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学活用	2	
	科学と人間生活	2	
物理基礎	2		
物理	4		
化学基礎	2		
化学	4		
生物基礎	2		
生物	4		
地学基礎	2		
地学	4		
理科課題研究	1		

保健 体育	体育 保健	7~8 2	○ ○
芸術	音楽Ⅰ	2	┌ ├──○ └──
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ 書道Ⅲ	2 2	
外国語	<u>英語コミュニケーションⅠ</u>	3	○2単位まで減可
	<u>英語コミュニケーションⅡ</u>	4	
	<u>英語コミュニケーションⅢ</u>	4	
	<u>論理・表現Ⅰ</u>	2	
	<u>論理・表現Ⅱ</u>	2	
	<u>論理・表現Ⅲ</u>	2	
家庭	<u>家庭基礎</u>	2	┌ ○
	<u>家庭総合</u>	4	
情報	<u>情報Ⅰ</u>	2	○
	<u>情報Ⅱ</u>	2	
理数	<u>理数探究基礎</u>	1	
	<u>理数探究</u>	2~5	
<u>総合的な探究の時間</u>		3~6	○2単位まで減可

保健 体育	体育 保健	7~8 2	○ ○
芸術	音楽Ⅰ	2	┌ ├──○ └──
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ 書道Ⅲ	2 2	
外国語	コミュニケーション英語基礎	2	○2単位まで減可
	コミュニケーション英語Ⅰ	3	
	コミュニケーション英語Ⅱ	4	
	コミュニケーション英語Ⅲ	4	
	英語表現Ⅰ	2	
	英語表現Ⅱ 英語会話	4 2	
家庭	家庭基礎	2	┌ ○
	家庭総合	4	
	生活デザイン	4	
情報	社会と情報	2	┌ ○
	情報の科学	2	
<u>総合的な学習の時間</u>		3~6	○2単位まで減可